



洋書輸入協会会報

Vol. 29 No. 5 (通巻336号) 1995年5月

海外ニュース

ホルツブリンク社が英国マクミラン社の過半数株を獲得

ドイツの巨大メディア会社のホルツブリンク社は、4月中旬、英国のマクミラン株の70%を買収したと発表した。マクミラン社は世界各地に約2000人の社員を抱えているが今回の買収は両社にとって理想的な形と伝えられており、マクミランの出版活動はこれまで通り独立して行われ、経営側にホルツブリンクの役員が何人か加わるものの解雇される社員は一人もない。

マクミランの近年の成長は著しく、過去3年間で売上高は30%増、利益は2倍以上と好成績をあげている。株の公開という方法も考えられたが、結局、マクミランと同じく同族会社で、経営哲学、出版界での伝統、地位が良く釣り合った会社との合体のほうが望ましいと判断された。

マクミランは、やはりホルツブリンクが最近買収したファラー・ストロース・ジロー (FSG) と同様に最後の伝統ある独立経営の大手出版社のひとつとして知られている。ホルツブリンクはドイツ出版界で二番目に大きな企業だが、これまで子会社には無干渉主義をとってきたといわれており、これも、マクミランにとっては好都合な点である。

また、ホルツブリンクにとってはマクミランの所有する米国のセント・マーチン社も大きな魅力である。ホルツブリンクが米国に所有するカレッジ専門の出版社は2社あり、そこは自然科学分野の書籍を出版しているが、セント・マーチンは人文科学書のみ、という具合にこれも相互にとって好都合な条件である。

今回の買収については、市場におけるマルク高もひとつの要因となったと考えられてる。仮にこの買収が一年前に行われていたとすると、ホルツブリンク側は実に20%も余分に出資しなくてはならなかったのではないとも言われている。

—BP Report '95. 4. 17号より—

お知らせ

○株式会社ゲーテ書房の村山新吾氏は、本年4月同社の代表取締役社長に就任された。

なお、前社長上村富太郎氏は95歳のご高齢にもかかわらず、社主として従来通り社業に精励される由、ご健勝をお祈りします。

○株式会社郁文堂の大井敏夫氏は本年3月末代表取締役を辞任され、代わってご子息の大井敏行氏が代表取締役に就任されました。

目次

海外ニュース	1	海外出張零れ話	3	洋書輸入協会史90	5
お知らせ	1	総代理店ご案内	4	東京の坂と橋と文明開化97	7
うちの会社	2	文化厚生委員会だより	4	広告	8

国立国会図書館の人事異動

副館長（総務部長）	井 門 寛
総務部長（専門資料部長）	宮 脇 岑 生
専門調査員、司書監事務取扱・総務部業務機械化室長（逐次刊行物部長）	三 上 良 一
専門調査員（総務部司書監・業務機械化室長）	鶴 田 真 也
逐次刊行物部長（司書監・図書館協力部視覚障害者図書館協力室長）	小 高 孝 彦
専門資料部長（図書館協力部副部長）	枝 松 榮
収集部司書監・収集企画室長（図書館協力部司書監・図書館研究所長）	村 木 榮四郎
図書館協力部司書監・図書館研究所長（収集部司書監・収集企画室長）	中 林 隆 明
調査及び立法考査局主幹（調査及び立法考査局庶務課長）	森 山 高 根
調査及び立法考査局主幹（調査及び立法考査局農林環境課長）	北 林 壽 信
収集部司書監・資料保存対策室長（総務部情報処理課長）	島 村 隆 夫
専門資料部副部長（専門資料部参考課長）	堀 本 武 功

うちの会社

株式会社 紀伊國屋書店

弊社紀伊國屋書店と言えば、新宿での待ち合わせの場所として親しまれている新宿本店が有名である。

弊社の創業は昭和2年この新宿の地に田辺茂一が家業を炭屋から書店に変えたことから始まる。書店に向ける田辺の志は高く、創業の当初から売り場に画廊を設けたり、出版を事業として早い時期から着手したりと文化的書店像を追求していた。

戦後は新宿の町の復興・発展に歩調を合わせ弊社も立ち直っていくが、昭和23年に竣工した前川国男氏の設計の旧社屋が礎となった。この150坪の店舗には吹き抜けの2階に本格的な画廊を設け、来店する学者、文化人の方々から芸術的な香り高い書店として好評を博した。

洋書の輸入を始めたのもこの年からである。戦後の海外学術情報に対する飢餓感は強く需要の高まりに対し輸入を拡大し、洋書を和書に並ぶ経営の柱に育てることができた。

昭和30年代に入ると地下鉄丸の内線の開通を契機に新宿は飛躍的に発展した。

弊社も東京西部近郊から訪れるサラリーマン、学生をターゲットにした店づくりを行い精神のオアシスと

して新しい文化・思想に接することのできる場の提供に努め、学術的な書店の評価を得ることができた。

洋書においては、大学や企業の高まる需要に対応するために営業所の開設を積極的に続けた。

さらなる飛躍のきっかけは昭和39年の現在の紀伊國屋ビルの竣工である。この本店は当時一般的であった書店経営20坪適正規模論を覆すものであった。欲しい本は何でも揃う本の専門店を実現し、大型書店の先駆となった。ビル内に併設したホールと画廊は書籍の売り場と相乗効果を呈し、文化の殿堂として注目された。

これを契機に渋谷店、梅田店と大型店を開店し営業所網も拡充し現在国内35店、海外20店、50余の営業所となっている。洋書の販売にはこれら店と営業所にて行っている。

店の洋書売場として弊社の顔となっているのが、本店洋書部である。品揃えは総合書店として学術書は全分野を揃える一方、一般書も需要に答え取りくんでいる。

昨今は特に新宿の町の国際化を反映してか、外国人の方々の来店が増えている。

計 報

日本洋書販売配給株式会社 取締役副社長 槌田孝一氏は4月2日肝不全のため逝去された。享年68歳。近親者による密葬は4月4日済ませたが、社葬による葬儀・告別式が4月24日千日谷会堂に於て厳粛にとり行われ、海老原理事長はじめ多数の協会員も参列、ご霊前にお別れを告げた。

槌田氏は1956年「洋販」に入社。大阪支社長として同社の発展に貢献、1971年東京に戻られ副社長の重責を果たされていた。

《ユーロスター特急》初乗り記

去る3月末、欧州に業務出張の折り、パリ～ロンドン間を、開通したばかりのユーロ・トンネルを通る《ユーロスター特急》に乗車しましたので、早速、レポート致します。

乗車日は3月23日で、パリ北駅8時10分発。3時間でロンドンのウォーターール駅に到着します。車両は、例のTGVをベースにしたフランス製で、15両の長い編成です。定刻に、ほぼ満員で発車し、サクレール寺院を左手に見ながらパリ市街を離れ、緑濃いフランス北西部の平野に敷かれたTGV専用の直線路線に入ると、一気にスピード。丁度、コンコルド機が音速に達した時と同様に、《ユーロスター》のスピードが時速300キロに達した時に、車内にアナウンスがあります。

リーユからは少しスピードが落ち、パリ発車後約1時間半でカレーより海底トンネルに入り、約20分後、地上に顔を出すと、ネットフェンスに囲まれたフォークストン駅をノンストップで通過。やがて列車は、右側通行から左側通行へ、また、給電システムも架線集電方式から地上の第三軌条電方式に変わり、特急は英国南西部ケント州に入ります。

この地方の鉄道電化は早かったものの、地上設備は老朽化しています。列車は、160～170 km/hのスピードで走り、途中で平面交叉のジャンクションに行き当たります。ここでは、唯一の信号停車があります。そして、周囲の景色もフランスの田園地帯と異なり、ややせせこましい島国のたたずまいとなります。地上に出てから1時間後にロンドン郊外に達し、列車事故で一躍有名になったクランプハム・ジャンクションを通過、定刻より約10分遅れでウォーターール駅に到着します。

この《ユーロスター特急》は、朝夕2～3本のサービスのみで、昼間はサービスがありません。料金は、ファースト・クラスが810フラン。これには、朝食とソフト・ドリンクが含まれます。乗客は、殆どがビジネス客です。車内のシックなインテリアと落ち着いた色調、そして、柔らかな間接照明。乗客の服装も、皆、この雰囲気マッチしているのは、さすがです。



(ユーロスターチケットホルダー)

また、車内で会議ができるよう、テーブルを挟んだ四人掛けのシートも用意されています。出入国手続きは、他のヨーロッパ国際特急と同様です。列車はロンドン往きなので、英国のオフィサーが乗客のパスポートをチェックしますが、税関検査の手続きは車内では行なわれません。

最後に、パリ～ロンドン間は飛行機か列車か、その何れがよいかという選択についてお知りになりたい方もおられるかと思います。恐らく、日本から欧州を訪れる旅行者は、往復切符にパリ～ロンドン間も含まれているので、列車を選ぶ場合、乗車券のコストがプラスになります。反面、パリ北駅やウォーターール駅は、それぞれ、パリ、ロンドンの中心部に近く、タクシーの費用と市内の移動時間が大幅に節約される利点があります。事実、このためか、パリ～ロンドン間は、列車利用客が増えているようです。

もう一つ忘れてはいけないのは食事です。

飛行機利用の場合は、飛行時間45分、食事時間は15分位で、大変せわしない思いをさせられますが、列車の場合、スチュワードとスチュワーデスによって運ばれて来たイングリッシュ・ブレックファストを一時間程の時間を掛けてゆっくりと楽しむことが出来ます。これは、多忙なビジネスマンにとっては、大変贅沢な時間の過ごし方だと思えます。

どちらを選ぶかは皆様の判断ですが、私は、断然、列車旅行を選択します。何故ならば、私は、鉄道ファンだからです。
(ユサコ株式会社 山川隆司)

総代理店ご案内

ユナイテッド・パブリッシャーズ・サービス社

Tel. (03) 3291-4541
Fax. (03) 3293-3484

論文選集／拡大する世界——ヨーロッパの膨張と世界への影響 1450-1800

An Expanding World: The European Impact on World History,
1450-1800. General Editor: A. J. R. Russell Wood
(Variorum)

全30巻以上(予定) 各巻予価 13,200円 1995年5月刊行開始

——収録タイトルの一部——

1. Fernández-Armesto, F. (ed.): The Global Opportunity. 0-86078-500-9 May '95
 2. Fernández-Armesto, F. (ed.): The European Opportunity. 0-86078-501-7 May '95
 3. Lamb, U. (ed.): The Globe Encircled- The World Revealed. 0-86078-502-5 July '95
 4. Disney, A. (ed.): Historiography of Europeans in Africa and Asia. 0-86078-503-3 July '95
 5. Turnrr Bushnell, A. (ed.): Establishing Exceptionalism; Historiography and the Colonial Americas. 0-86078-504-1 July '95
- 以後続刊——

文化厚生委員会だより

第75回 72会ゴルフコンペ

狭山ゴルフクラブ 1995. 3. 9(木) 参加26名

5メートル余りのロングパットが快音と共にカップイン、バーディー“これでブービーがなくなった”と歓喜の声が印象的であった。池越えの難しいショートホールでの尾内さん、BB どころか終ってみれば優勝でした。力まず無理のない紳士ゴルフの快挙でした。当日は4月半ばの気候で柳も芽吹き、紅白の梅も随所に見られ絶好のゴルフ日和でしたが難しいコースに加え、春独特の風に悩まされ、スコアマークには皆さん苦労された様でした、そんな中で基本に忠実、我慢のゴルフに終始された後藤さんが並み居る男性を抑えてのベストグロスは立派でした、小林さん、原さんのドラコン飛距離はプロ級でした、同ネット2位の川野さん、1打差3位的小林さん、次回が楽しみです。成績は下記の通りでした。

			G	HC	NET
優勝	尾内昌弘(丸 善)	111	30	81	
2位	川野順章(丸 善)	99	18	81	
3位	小林忠夫(紀伊国屋)	102	20	82	
BG	後藤明美(ベーカー&テラー)	G	95		
DC	小林忠夫(紀伊国屋) 原 康三(紀伊国屋)				
NP	竹村政彦(丸善OB) 小関妙子(名著普及会)				

ラウンド終了後クラブハウスにて恒例のパーティーに移り、入賞者によるそれぞれ特徴のあるスピーチで会が進行したが、いつもの盛り上がり欠けていた様でした、世紀末を思わす様な大災害で被災された方々への気配りからだったせいか。

鶴さん、和田さんの両幹事さんご苦労さまでした。

村山(ゲーテ書房)記

JBIA DIRECTORY 1995

—4月中出来予定—

(洋書輸入協会ダイレクトリー1995年版) 25.7×18.2cm 355頁

●会員価格 2,500円(送料共) ●一般価格 4,500円(送料共) ●海外価格 8,000円(航空便送料共)

洋書輸入協会史 (96)

洋書輸入協会顧問 相 良 廣 明

109 フランスにおける書籍業務研修生募集について

昭和39(1964)年6月22日、フランス大使館より丸善司理長へ、頭記の件について連絡があり、翌6月23日付のJBIA No. 189で早速次のように会員に知らせている。

記

フランスにおける書籍業務研修生募集について

このたび在日フランス大使館、文化顧問ピエール・ルイ・ブラン(Pierre Louis BLANC)氏より、当協会理事長宛書翰により、下記の要領で研修生を募集して参りました。この企画は海外向フランス出版協会が、同国外務省の援助により全国出版業組合と共同して、出版あるいは書籍販売業者に融資を行い、フランスにおいて職業の完成専門化を行うため、課程をもうけるものです。

- (1) 業務見習中の若い男女に対し、6～9ヵ月の課程
- (2) フランスの出版社及び書店において4週間のゼミナールに参加
- (3) 資金は月毎の滞在費に対し支出され、渡航費は負担しません

ご希望の向がございましたら至急御申出下さい。(以上)

これらはまだ簡単なもので、時期、人数、補助率、試験の件など、フランス大使館にも不明であるとのこと。これらの不明の点は、協会より直接フランスへ問い合わせることとなっている。

同年9月22日、協会で懇談会を開催したが、その席上フランス研修生の件の若干の知らせがあり、次いで同年10月5日付のJBIA No. 193で次のように会員に知らせている。

記

先にJBIA No. 189号にてお知らせ申し上げましたassociation nationale du livre français à l'étrangerよりの研修生募集に関し、別紙の通り詳細な規定の通知が参りましたので御通知申し上げます。御希望の向は10月25日までに履歴書を添えて当協会宛お申込み下さい。(以上)

添附別紙は3ページにわたる詳細なものであるが、これは省略する。要点は、申し込みは11月15日まで、世界中で10人募集する、来年1月発遣し、2月までに決定す

る、期間6ヵ月、往復旅費は派遣側で持つこと、資格としては書籍販売業に従事する者または雇傭されている者、参加者はフランス語を容易に理解しなければならない、などのことである。

同年10月16日の理事会では、協会員各社より推薦された者の和文履歴書などを理事一同にて書類審査し、協会としての推薦者を決定する。ただし別に支障が無ければ、提出された人すべてを推薦することもあり得る。協会としての推薦者が決れば、フランス語の履歴書と、協会としての推薦状をフランスへ送る。フランス側の審査方法は不明であるが、世界中からの申込者が多ければ、当然何等かの形式で試験が行われよう。などのことが議論された。

このような経緯のもとで参加者が募集され、いろいろ候補者名があがったが、最終的には株式会社紀伊國屋書店の渡辺和彦氏1名となった。同氏は昭和40(1965)年2月に日本を出発、3月に約1ヵ月のセミナーを受講する。このセミナーには世界中から約10人が集まっており、座学の他パリ市内の書店、或いはマルセイユなどの地方の大書店、印刷会社の見学など、なかなか充実したものであった由。予定された書籍業務の研修はこれで終わるが、前年に欧明社の奥山社長(当時、故人)がHachetteで1年に近い研修を受けたのに倣い、同氏はその後同社で約半年間の実務研修を受けている。

フランスからの公式な書籍業務研修生の受け入れは、残念ながらその後中絶するが、十数年後に日本から8人がまとめて招待され、短期間の研修を受ける機会があった。その他に、この昭和39(1964)年の書籍業務研修をきっかけとして、洋書輸入の各社が、個々にフランスの出版社、或いはドイツの取次店と交渉して業務研修を受けるケースが見られている。そういう意味でも、フランスのこの公式の書籍業務研修は、日本にインパクトを与えたといつて良いであろう。

110 直販百科事典の輸入急増

昭和39(1964)年12月10日に開催された懇談会で、頭記の件について丸善の桜井理事長代理より報告があった。その要点を記してみると次の通り。

日米貿易協議会の資料によると、U.S. Export to

Japan 1963 の統計では、Printed Matter の日本への輸出が489.5万\$（1962が322.3万\$であるから、前年比152%）であるのに対し、Dictionaries and Encyclopedia は日本における Direct Sales のために243.8万\$（1962が90.1万\$であるから前年比271%）が輸出されたとの記事があった。日本での Encyclopedia の Direct Sales がいかに積極化しているかの実情が裏書きされている。また日本関税協会の輸入統計でも、Books の1963（昭和38）の米国から日本への輸入額は465.7万\$（1962：昭和37は353.2万\$であるから前年比132%）であり、1964（昭和39）の1～9月は、609.7万\$（1963：昭和38の1～9月は330.5万\$で前年比184%）であって、Encyclopedia の輸入増大が加速していると推測される。

これは一方で協会の念願である輸入担保率の引き下げをさまたげる一因となっている模様である。当協会としても相当な関心を要することであるから、今後何等かの対策を考究しなければならない。（以上）

（注）昭和36（1961）年1～12月の Books の輸入額は、日本関税協会の統計によれば627.8万\$であり、昭和37（1962）年は353.2万\$（前述）であるから、前年比56%にすぎない。ただしこれは、この年から統計の出し方の基準を変え、1 Package \$1,000. —以上のものだけを集計することとしたためであり、このため昭和37（'62）年以降の統計には Post 分はほとんど含まれず、Freight 及び Bulk Post のみの数字であろうと思われる。（以上）

なお昭和40（1965）年1月時の統計によれば、昭和39（1964）年1～11月の書籍の米国からの輸入は740万\$、前年同期が580万\$であるから、前年比128%となっており、矢張り急激な上昇を示している。この急激な上昇は、やがて一部の直販輸入百科事典の訪問販売の手法が、販売部数の増加と共に新聞や週刊誌に取り上げられて社会問題となったことと、マーケットの飽和状態化と相俟ってある時点から下降に転じている。世間の中には、洋書輸入協会がこの直販と関係があるかのように誤解される方もあって、お叱言を頂戴した協会メンバーもあったらしい。

111 昭和39（1964）年度の海賊版及び海外への不払い事件

111.1 Gmelin

ドイツの Verlag Chemie に対し、日本から日本語で、Gmelins Handbuch der anorganischen Chemie のリプリントの版權を貰いたい、条件は版權料なし、その

代り 400 印刷して、200 sets を Verlag Chemie へ寄贈するという申し入れがあった由。この当時で50巻を越す膨大な無機化学文献総覧は、世界の文化財であり、そのリプリント版を作ろうという計画及びこの条件は、非常識としか言いようがなく、到底真面目な申し入れとは思われない。どこかの海賊版屋が当たって砕けろ式で手紙を出したのであろうが、日本の文化程度を疑われる申し入れであると、昭和39（1964）年5月28日の理事会で論議された。

111.2 海賊版業者の検挙と対策

昭和39（1964）年9月10日の理事会では、最近新聞で報道された海賊版業者が検挙された件が論議されている。この記事については週刊誌、業界紙などから丸善や紀伊國屋書店もコメントを求められている。理事会としては、これは海賊版撲滅のための良い機会であるから、各社とも進んでPRに努めることにした。

PRの要点としては、第一に、従来のやり方の他に、今まで我々が触れなかった海賊版の購入者側の責任も取り上げよう、そのことを我々が取り上げたからといって、得意先を失うことにはならないであろう。PRの第二は、海賊版業者の悲惨な末路である。終戦の混乱期が過ぎた今日では、法体系も整備され、摘発された海賊版業者は刑事訴訟が済んだら民事訴訟に入り、莫大な損害賠償を請求される。京都の某、本郷の某は、いずれも5千万円から1億円の賠償を版元から請求され、家を売って一家離散となっている由。彼等にはその上に脱税容疑と追徴金が待っていることなど。

111.3 海外への支払い不履行

海外からの仕入れ代金を支払わず、自社のみならず同業者全体に迷惑をかけ、日本の信用を失墜するケースが時々出て来る。幸い洋書輸入協会のメンバーには極めて少ないが、昭和40（1965）年1月25日の理事会では次のような件が報告された。

国際文献社（非会員）、フランスに買掛金が残っており、フランス大使館より問い合わせがあったが、同社は既に存在せず、社長は行方不明。

東京出版貿易 K.K.（非会員）。これもフランス大使館より問い合わせがあったものである。フランスのみならず世界中に買掛金があり不払いの模様。同社はいろいろ名前を変えてあちこちと取引をしていたが、現在社長は逃げ回っていて所在不明。

以上などは、極めて残念な事例である。（続く）

港区の坂と文明開化〔9〕 公使館めぐり

丸善・本の図書館 鈴木 陽 二

◆日本近代化に果たしたイギリスの貢献 (2)

幕末から明治初期に輸入され原書のまま浸透したり、あるいは翻訳されて流布した本は数えきれないほどあるが、その大部分は多かれ少なかれ、日本近代化の一端を担ったということができる。そして、その中で特に近代化黎明期に重要な役割を果たした出版物、いわば近代化の幕を開けた書物とでもいえるものを幾つか上げることができるが、それらはイギリスから将来した本が多かった。今回は日本近代化に果たしたイギリスの貢献を出版物の観点から探って見ることにしよう。

福沢諭吉は1860(万延元)年の渡米の折りにウェブスターの辞書を購入したことはよく知られているが、さらに1862年(文久2)年の幕府遣欧使節に同行してヨーロッパ諸国を歴訪したときに、ロンドンで英書をたくさん購入しており、そのなかに“Chamber's Educational Course. Political Economy for use in Schools and for Private Instruction”が含まれていたという。ただ高橋誠一郎先生の考証によれば、この本はロンドンで購入したものではなく、福沢が万延元年の幕府翻訳局出仕時代から所有していたようだとしている。ともあれ、福沢は本書を西欧の資本主義的社会構造を日本人に理解させる上で恰好の文献であると考えたばかりではなく、福沢自身の自由主義的経済思想をはぐむ文献ともなった。そして、この中のソシアル・エコノミーの部分の翻訳して『西洋事情』の外編として上梓した。

『西洋事情』と並んで明治初期のベストセラーとなった本は、“Samuel Smiles-Self Help”を中村正直が翻訳した『西国立志編』であった。封建制が崩壊して自由社会を迎えた時代の気風に合致して、爆発的な勢いで流布した。この本は、自分の才能を生かし社会的成功を獲得するという、不羈独立の人生観を教えたばかりではなく、この中で300名以上にのぼる欧米の立志伝中の人物を、日本に初めて紹介したということは重要な意味をもった。明治の人々は、シェイクスピア・ニュートン、ガリレオ、ダーウィン、ナポレオン、ロック、ミル、チヨースーなど、世界史に名を残した多くの偉大な人物に関する知識をこの本によって吸収することができた。

経済学者ジョン・スチュアート・ミルの摂取も早く、新時代を迎えた日本に欧米の経済学原理とともに自由主義を浸透させる上で大きな役割を担った。明治4年に早くも中村敬宇によって『自由之理』(On Liberty)が翻訳されているが、主著の“Principles of Political Economy”は少し遅れて林董・鈴木重孝の共訳で『弥児経済論』として明治8年に刊行された。イギリスの歴史学者バックル(Henry Thomas Buckle)『英国文明史』(History of Civilization in England. 2 vols.)は各国語に訳されて広く読まれた歴史書であるが、日本でも早くから輸入され、この本に接した福沢が深く感銘して、その史観を踏まえながら『文明論之概略』を執筆した。翻訳は明治8年に大島貞益によって『英国開化史』として出版された。この著作は福沢のみならず、田口卯吉や加藤弘など多くの明治初期に活躍した知識人の思想形成に強い影響を与えた。

進化論は明治期前半における最大の学術思想であった。社会進化論者で時代を風靡したスペンサーの著作は明治8年の東京開成学校の蔵書目録に見ることができるし、丸善の明治9年の洋書リストにも掲載されているので、輸入は相当早くから行われていたことは想像にかたくない。翻訳は“Social Statics”が明治10年に尾崎行雄によって『權利提綱』として刊行されたのが初めてであり、『綜合哲学大系』の翻訳も早い時期にスターとしている。一方生物進化論のダーウィンの著作は明治14年に『人祖論』が現れたのが最初であるが、丸善の上記目録には『種の起源』原書が含まれているので、進化論が流行する明治10年代以前にも早くから日本人の目に触れ、進化論受容の空気が醸成されていたものであろう。

文学では明治5年にロビンソン・クルーソーの訳『魯敏孫全伝』、シェイクスピアでは明治8年の『葉武列士』筋書(ハムレット)などが現れているほか、カーライル、スコット、リットンなど、日本の新しい文学の誕生・生成に影響を与えたイギリス文学が早くから移入されている。教科書類でも近代化黎明期に日本人を教導した重要なイギリスの出版物があったが、紙面の関係で割愛したい。

有機化合物大辞典
第6版/全9巻
Dictionary of Organic Compounds,
6th Edition, 9 Volumes

Ed. by J. Buckingham and F. Macdonald

<1995年11月刊行予定>

●BOOK 年間補遺込みの継続注文番号MSN: 94S0765

●BOOK 本体全9巻のみの単品注文番号MBN: 9445311

出版前特価 (95年11月15日まで) ¥598,000 左記以降 ¥805,000

1934年初版刊行以来版を重ね、「DOC名」によるABC順収録や、最新の情報を毎年追補として提供するなど、最新のデータ・情報量・使い易さなどの点で他の文献を凌ぐ、高い利用頻度を誇る有機化学文献「Heilbron's Dictionary of Organic Compounds」の最新版。

新版の主な特長

- *全9巻: 本文部分7巻, 索引部分2巻(DOC名, 分子式, CAS登録番号など), 全9,500頁。
- *145,000超の化合物, 65,000項目を収録(第5版に比べ, 30,000化合物, 18,600項目の増。)
- *危険性・毒性データ, 有機磷・有機硫黄化合物データの増加, 天然物は, コアなものだけ約7,000に整理されている("Dictionary of Natural Products" - 7 vols., '93に移項されたため)。全体として, 有機・精製化学に重点がおかれている。
- *利用しやすいコンパクトな頁レイアウトにより, 収録各化合物毎に必要な情報が一目瞭然。
- *芳香族, ヘテロサイクリック, 脂肪族, 脂環式化合物/原料・合成データ/応用データ/毒性・危険性情報/CAS登録番号/物理データの充実。
- *同時刊行の, CD-ROM (MS-DOS/Windows版)もお求めいただけます。CD-ROM版では試薬メーカーの情報や, 機能, 検索スピードやユーザインタフェースの向上したCD-ROMにより, より快適な全文や構造, 数値, 文献検索とそのダウンロード・プリントが可能。また, 6ヶ月毎のup-dateにより, 最新の情報の利用も可能です。

(Chapman & Hall, GBR)



日本総代理店

(本社・日本橋店) 〒103 東京都中央区日本橋2-3-10 ☎(03)3272-7211 振替東京7-5番

支店・営業所—東京(お茶の水・丸の内・内幸町・浜松町・アークヒルズ・渋谷・錦糸町・北千住・柏・取手・上野・船橋)・千葉・八王子・大宮・新潟/札幌・仙台・盛岡・筑波・水戸・横浜・静岡・浜松・名古屋・津・岐阜・金沢・京都・大阪・神戸・姫路・岡山・松山・広島・福岡・長崎・鹿児島・沖縄・ニューヨーク・シカゴ・ロンドン・シンガポール

1995年5月

通巻第336号

洋書輸入協会

編集者 神田 俊二

〒103 東京都中央区日本橋1-21-4 千代田会館5階20号室

☎(03)3271-6901 FAX (03)3271-6920

印刷所—藤本綜合印刷株式会社